



# 新治小学校だより

令和4年度

6月号

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年5月31日

マスクはつけるの？はずすの？



副校長 青木 直美

運動会（体育参観）が目前にせまり、子ども達の練習も仕上げに入っています。みんな保護者の皆様に見てもらうのを楽しみにしていることと思います。今年も運動会（体育参観）を実施するにあたっては計画の段階から感染予防対策を考えながら準備を進めてきました。その中で、5月中頃に横浜市教育委員会より「熱中症対策ガイドライン」の改定についての通知が届き、保護者の皆様にもお知らせをしたところです。先週文部科学省からも同様の通知があり、熱中症を予防するために外ではマスクを外す、体育館でも WBGT（暑さ指数）が 21℃を超える時は外す、という方向性が示されました。しかし、「新型コロナウイルス感染症対策として、学校生活ではマスク着用を原則としており、マスクを外す際は、できるだけ身体的距離を保つ、近距離での会話を控えるようにするなどの配慮をすることが望ましい」ということには変わりはないとも示しています。『マスクはつけるの？はずすの？』難しいですね。

先週は、休み時間には放送を入れたり、教師が外で WBGT（暑さ指数）をチェックしたり、ロング昼休みには途中で水分補給を呼びかけたりしました。それでもリレーの練習や、校外活動、休み時間のあそびなどで体調が悪くなり、保健室を訪れる子どもが毎日のようにいました。それは暑さに慣れていないことにも起因しているのだと思います。私も5校時にマスクをして外で作業をしていたところ、頭痛がし、「あ、まずいな」と思ったことがありました。日差しは強かったのですが、さわやかな風が吹いていて、気温もそこまで高くなく、ただそんな気候だったので、帽子はかぶっていませんでした。その時は室内に戻り、水分を取り、様子を見ていましたが、動いているわけではないのにマスクがとても苦しく感じました。ほどなく頭痛は収まりましたが、マスクをつけての熱中症の危険は、こういうことだと感じました。

子ども達の様子を見ているとまだまだマスクを外すことに抵抗があるようです。それは、この2年以上「マスクをしよう」と言われ続けていたのですから当然でしょう。学校では引き続き熱中症の危険性や屋外ではマスクを外すことなどを指導していきますが、家庭でも、「なんでマスクを外すのか、なんでマスクをつけるのか、それぞれの利点、欠点は何なのか。」「熱中症はどんな病気か、熱中症になるといったいどんなことが起こるのか。」「新型コロナウイルス感染症と熱中症、マスクについては予防方法が真逆だけど、どうしたらいいのか。」などなどたくさん考え、いろんな人の意見を聞き、疑問に思ったことを調べ自分の考えを深めて欲しいと思います。そして『マスクはつけるのか、外すのか』状況や場面に応じて自分で考えて判断し、自分や周りの人の命を守る、大切にできる行動がとれるようになったら、素晴らしいなと思います。